

1 学校の自己評価

(3)「児童アンケート」結果と考察

1. 生活のこと

昨年度比べても大きな変化はない。全ての項目において肯定的な意見「そう思う」「どちらかというと思う」の割合が高い。引き続き、楽しい学校生活が送れるよう指導していきたい。しかしながら、「どちらかというと思わない」「そう思わない」と回答している児童もいる。個々の児童に当たって、なぜその子が「そう思わない」のか実態をしっかりと把握し、一人ひとりの居場所や活躍できる場のある学校・学級づくりにつなげていきたい。

2. 学習のこと

学習についても、5つの項目において、肯定的な意見「そう思う」「どちらかというと思う」の割合は高い。⑦「先生たちは健康についての話をしてくれる」はコロナが5類に移行はしたものの、インフルエンザなど流行があったり、酷暑の中、熱中症にかかわる指導もしていただいたりした成果か、「そう思う」について昨年度78%から84%と伸びている。学習について児童が「そう思う」と自信をもって答えられるよう指導の充実を図っていきたい。

3. 安全のこと

どの項目においても「そう思う」「どちらかというと思う」の割合が高い。コロナ5類移行を受けて、教室環境については、消毒少なくなったためか、⑩については「そう思う」が91%から85%に下がっている。登下校の安全については担当の先生を中心に問題があった際には、随時指導に当たってきているが、今後も継続した指導を続けていきたい。今年度は4年生を中心に防災教育にも力を入れて取り組んできた。引き渡し訓練や避難訓練、防犯・防災などに関わる授業を今後も計画的に実施していきたい。

4. 地域のこと

この項では、児童が学校生活のことについて家庭に知らせているか、また家庭で自分のことについて話をしているかなど問うている。⑫「あなたは、先生たちからの連絡やお便りなどきちんとお家の人に伝えている」について「そう思う」が昨年度の82%から66%と大きく下がっていることが気になる。この項に関しては学級によって違いがあることから、学級での指導を改めて見直す機会にしたい。⑬「家庭訪問や個別懇談が終わった後に家の人と学校の話をしている」項目については、昨年度同様、「どちらかというと思う」「どちらかというと思わない」の割合が他と比べて高い。日頃から、家庭への話題提供を積極的に行うとともに、児童が自分自身について肯定的な意識を高めていけるよう引き続き指導していきたい。

5. まとめ

今年度は、1年生から全校児童が Forms でのアンケート回答を行った。ICTの活用が低学年にも定着してきている。しかし学年を間違えるなど、回答の仕方には注意が必要である。

結果については、「そう思う」「どちらかというと思う」の欄への○が多かったので、概ね達成できたといえる。しかし、⑫⑬について、児童を通した学校と家庭との連携をどのように図っていくかは課題である。また、個々の回答に目を向けると、支援を必要としている児童がいる実態が見えてくる。そういった児童の思いを受け止め、学校生活の改善につなげていかなければならない。